
バルト（まだ見ぬ今）

冷凍鮪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バルト（まだ見ぬ今）

【Nコード】

N0122D

【作者名】

冷凍鮪

【あらすじ】

西暦2070年謎の生命体^{エゴウズ}と特種人類（Sプレース）が種族の存亡を掛けて戦闘を繰広げるSFファンタジー。人類に進化の未来はあるのか！人類は地球の進化から消えるのか？病原菌でもない災害でもない敵！生残れる確率56%・・

バルト戦場区の戦い

西暦2070年 世界は或未知の生態と戦っていた。未知の生態と人類の戦いが激しくなるなか、人類から誕生したSプレーズと呼ばれる特種人類が未知の生態エコウズに対向すべく戦場区に向かった。ジャグ長官

「後五分で戦場区に着陸する2年間訓練した成果を今試す時が来た諸君等の能力は人類最高の者だエコウズを制圧し一人も命を失う事無く速やかに作戦を実行する」戦場区そこには人類が存在していた既に過去の事の様に荒果てたと言うより朽果てていた。ジャグ長官「よし、戦闘準備せよ」長官は険しく部下に気合を込めた。10機の輸送ジェットヘリの格納庫が一斉に開き特殊部隊約300人が出動した。彼等は武装し、まるでロボットの様に冷たい雰囲気を漂わせていた。ジャグ長官

「各部隊継ぐ、エコウズを発見したら攻撃せずに次の指令を待て。

緊急事態以外攻撃はするな以上」戦場区中央スタジアム西側

第2小隊大尉松野翔平

「全員ストライプカッターをかまえろ、生命反応を察知！」第2小隊副大尉

「指令部に通信しますか？」松野翔平

「いやまだだ！肉眼で確認する。副大尉と隊員6名はスタジアムに潜入し調査をしろ」副大尉以下6名がスタジアム内に侵入した。スタジアム内は闇では無い、薄灯が所々を照らしていた。副大尉

「2名は西側を調査、残4名はこのまま中央ゲートを進行する」大尉松野翔平

「副大尉聞こえるか？」副大尉

「ええ聞えてます」

大尉

「中の状況はどうだ」

副大尉

「レイダーで複数の反応は確認しましたがエコウズかどうかの認識には要ったってません」

大尉

「了解した。副大尉、無理はするなよ お前以外Sプレーズなのだ、実戦は彼等に任せろ」

副大尉

「了解した。追って連絡します」戦場区北側43エリア戦闘勃発。
第16小隊隊員

「やべえこいつら何なんだ？」隊員A

「怯むな能力を使いえ！」隊員B

「ようっし！ぬおー！左三角筋硬化、右三角筋硬化！」

Sプレーズは防御型と攻撃型に能力が分かれて居る。その能力を使い戦闘を行うのだ。

隊員A

「なんて数だくそう！右腕筋肉強化！両足筋肉強化！たたき斬る！」

ジャグ長官

「了解した！応援を送る」水上なな

「Sプレーズのパワーをこれより上げますか？」

ジャグ長官

「戦況が悪化している隊のみ許可する。」

水上なな

「了解した。Sプレーズリオ50%43地区25地区18名開放」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0122d/>

バルト（まだ見ぬ今）

2010年11月3日14時54分発行